

2026 連合平和行動 in 沖縄

参加報告

～語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で恒久平和を実現しよう～

2026年6月23日（火）～24日（水）の2日間にわたり、沖縄県において「2026 平和行動 in 沖縄」が展開されました。全国から約850名を超える仲間が集結し、東海3県からは23名、そのうち連合岐阜からは5名の代表団が参加しました。凄惨な地上戦の歴史を現地で深く学ぶとともに、今なお残る基地問題の現状に向き合い、恒久平和の実現に向け一丸となって連帯の声を上げました。

1.【初日】平和オキナワ集会・平和式典の開催

行動初日となる23日の午後、那覇文化芸術劇場なはーと（大劇場）にて「平和オキナワ集会」が開催されました。会場は満席となり、熱気に包まれるなかプログラムが進行しました。

- **第1部：基調講演「報道から平和を問う」** 講師には沖縄タイムス編集局長の赤嶺由紀子氏が登壇。「報道から平和を問う」と題し、メディアが戦争の実相をどう記録し次世代へどう語り継ぐべきか、また現代の緊張感高まる情勢における平和報道の本質について提起がなされ、参加者は熱心に耳を傾けました。
- **第2部：平和式典** 主催者を代表して連合・芳野友子会長が力強く挨拶し、労働運動が果たすべき平和への社会的役割を強調。続いて、地元歓迎挨拶として連合沖縄・仲宗根哲会長から、沖縄が置かれている現状と過重な基地負担について切実な訴えがありました。その後、次なる平和行動の地である広島へ想いを繋ぐ「ピースリレー」や「平和アピール」の採択が行われ、全員で恒久平和への誓いを共にしました。



主催者として、平和の重要性を強く訴える連合本部の芳野会長



2026 連合平和オキナワ集会に参加する連合岐阜からの参加者

2. 【2日目】戦跡を巡るピースフィールドワーク（Cコース）

2日目の24日は、朝方より「ピースフィールドワーク」が実施され、連合岐阜のメンバーは戦跡を中心に巡る「Cコース」に参加しました。

自然壕「系数アブチラガマ」の体験

最初に訪れた「系数アブチラガマ（自然洞窟）」では、激しい地上戦のなかで住民や負傷兵が避難し、過酷な状況を強いられた暗闇のガマの内部に入りました。電気もない暗闇の中で当時の人々が直面した恐怖を肌で感じ、戦争の凄惨さを強く突きつけられました。

ひめゆりの塔・魂魄の塔への参拝

続いて「ひめゆりの塔・ひめゆり平和祈念資料館」および「魂魄（こんぱく）の塔」を参拝。同世代の学生たちが巻き込まれた悲劇の歴史を深く学び、若くして犠牲になった多くの命へ静かに祈りを捧げました。

平和祈念公園と「平和の礎」

最後に訪れた「平和祈念公園・沖縄県平和祈念資料館」では、国籍や軍人・民間人を問わず、すべての犠牲者の名前が刻まれた「平和の礎（いしじ）」を前にし、戦争の惨禍を二度と繰り返してはならないという決意を新たにしました。



ガマの説明を聞く参加者



平和記念公園にて

3. 国際通りをデモ行進：基地縮小と地位協定見直しを訴える

フィールドワーク終了後の夕刻からは、県民広場にて『米軍基地の整理・縮小』と『日米地位協定の抜本的見直し』を求める集会・デモ」に合流しました。

集会の後、参加者一同は県民広場から牧志公園までの道のり（国際通り）をデモ行進しました。連合に集う仲間とともに、沖縄が今なお抱え続けている過重な基地負担の現状を広く市民や観光客にアピールし、地位協定の抜本的な見直しを強く訴えかけ、連帯の活動を行いました。



4. 連合岐阜 参加メンバーの感想・まとめ

- 「沖縄方々の戦争はまだ終わっていないと感じた」 凄惨な過去の歴史だけでなく、今なお広大な米軍基地が存在し、様々な問題を抱えている沖縄の現状を目の当たりにしました。戦争の影響や負担が過去のものではなく、現在進行形で続いていることを痛感させられました。
- 「『平和なくして労働なし』との言葉を大切な言葉だと感じた」 私たちが日々安心して働き、生活を送ることができるのは、大前提として「平和」があるからこそです。現地に足を運んだからこそ、労働組合が平和運動に取り組む原点であるこの言葉の重みを、改めて心に深く刻むことができました。
- 「普段の生活から真の平和のあり方を改めて考える機会になった」 沖縄での体験をその場限りのものにせず、岐阜に戻ってからの日常生活や労働運動のなかで、自分自身がどう平和に関わっていけるか、真の平和とは何かを問い直し、周囲へ伝えていく活動に繋げていきます。

ピースメッセージ #1

電力総連 M・Jさん

2026 平和行動 in 沖縄に参加し、沖縄戦の実相と平和の尊さについて深く学ぶことができました。

これまで戦争といえば8月6日、9日、15日が強い印象としてありましたが、沖縄では6月23日が「慰霊の日」とされ、組織的戦闘の終結として特別な意味を持つことを初めて知りました。この日に黙祷を捧げ、戦没者の思いに静かに向き合った時間は、戦争に対する自分の認識を大きく揺さぶりました。

フィールドワークでは、系数アブチラガマやひめゆりの塔を訪れました。組織的戦闘は6月23日に終わったとされていますが、実際には8月15日を過ぎてもガマの中には負傷兵や住民が残され、暗闇と飢え、恐怖の中で必死に生き延びようとしていたことを知り、戦争の残酷さを改めて痛感しました。

資料館で見た証言や遺品からは、戦争が日常と未来を奪うものであることが強く伝わってきました。

今回の参加を通じて、来年以降の6月23日は、今までとは違う重みを持つ日になると感じています。学んだことを次世代へ伝えていくことが、平和を守る一歩になると強く思います。



ピースメッセージ #1

電力総連 S・Yさん

今回の沖縄平和活動では、ひめゆり平和記念資料館・平和記念公園・
糸数アブチラガマを訪れ、戦争の悲惨さと平和の尊さを深く学びました。

ひめゆり平和記念資料館では、戦時中に看護活動を行った学生たちの
体験を知り、20歳にも満たない学生たちが過酷な状況に置かれていたこ
とに大きな衝撃を受けました。

平和記念公園では、多くの犠牲者の名前が刻まれた慰霊碑を前に、戦争
によって失われた命の重みを改めて感じました。また、糸数アブチラガマでは、
当時の人々が恐怖の中で身を寄せ合いながら、生き延びようとしていた様子
を想像し、戦争の現実をより身近に感じました。

今回の活動を通して、平和な日常は決して当たり前ではなく、多くの犠牲の
上に成り立っていることを実感しました。この経験を忘れず、平和について常
に考え続け、戦争を二度と起こしてはならないと強く思うとともに、周りの人た
ちや子供たちに伝えていければと思います。



連合平和行動2026

ピースメッセージ #1

情報労連 H・Hさん

「2026 連合平和行動 in 沖縄」に参加し、戦争の悲惨さと平和の尊さを改めて考える貴重な機会をいただきました。

ピースフィールドワークにて沖縄戦の戦跡を訪問しました。系数アブチラガマでは、ガイドの方から病棟や倉庫、井戸の役割をはじめ、負傷兵や姫百合学徒、住民が置かれた過酷な状況について説明を受けました。

ガマ内で照明を消すと、当時の暗闇や恐怖を想像でき、戦時下の過酷な状況をわずかながら体感しました。ひめゆりの塔では、系数アブチラガマに動員された姫百合学徒への理解を深め、現在の学生と変わらない年齢の生徒たちが戦争によって将来を奪われた事実衝撃を受けました。

戦争を繰り返さないためには、その悲惨な事実を一人ひとりが理解し、語り継ぐことが重要です。今回の学んだことを風化させることなく、職場でも平和活動への参加を呼びかけ、平和について考えるきっかけづくりにつなげていきたいと思っています。



ピースメッセージ #1

情報労連 M・Tさん

「2026 平和行動 in 沖縄」への参加は、戦争の悲惨さと平和の尊さについて考える貴重な機会となりました。

糸数アブチラガマでは、光を消した暗闇を体感。戦時下、想像を絶する恐怖のなかで約3ヶ月間もガマでの生活を強いられた人々の苦しみは、現代の私たちには計り知れないほど過酷なものだったと深く胸に刻まれました。

また、ひめゆり平和祈念資料館の展示や生存者の証言資料からは、戦争の悲惨さがリアルに伝わってきました。壮絶な状況下で看護活動に従事していた学徒隊の姿を知り、胸が締め付けられる思いでした。

今、何不自由なく日常を生きられている幸せを痛感するとともに、世界で続く紛争から目を背けてはいけないと改めて思いを強くしています。

日本の人口の約9割が戦争を知らない世代となった今だからこそ、この平和な日常への感謝を忘れず、「絶対に戦争を繰り返さない」という強い決意を持ち、平和への学びを次の世代へと語り継いでいく必要があると強く感じました。

